第47回日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を受賞して

鳥取大学大学院農学研究科フィールド生産科学専攻　佐　野　貴　洋

この度は，日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）という名誉ある賞をいただけたことを大変うれしく思います。クリタ水・環境科学振興財団の皆様，学会関係者の皆様，そして審査に関わっていただいた委員の先生方に厚く御礼申しあげます。

現在私は，中国山地中部の森林河川から流出する栄養塩濃度について通年で観測に取り組んでいます。当初は，冬季の調査には気が進みませんでした。調査流域が設定されている鳥取大学教育研究林は，中国山地中部の岡山県真庭市に位置し，冬季には１～２ｍの積雪があります。そのため，冬季は林道が雪で覆われてしまい，調査流域までは片道２時間半の徒歩による移動を余儀なくされます。１月と２月は日中でも気温が0℃を下回る日が多く，調査中はとても寒いです。雪崩が起こる箇所もあり，普段の調査と比べて危険性も増します。冬季の調査については，当初はやりたくないのが本音でした。試みとして，2011年２月下旬から冬季も週一回の頻度で採水を行うことに決まってからも，気は進みませんでした。

しかし，2011年２月下旬から４月末までの渓流水の溶存態窒素（DN）の分析結果を見たところ，無雪期と比べて1.7～3.8倍も高い値を示しており，融雪期はDNの流出負荷量を把握する上で重要と思われました。また，融雪期についての論文を捜してみたところ，融雪期は水資源管理や水環境保全を検討する上で重要な意味を持つことが示唆されていました。しかし，中国山地における融雪期の知見は極めて乏しい状況にありました。そのため，下流域の年間流出負荷量の推定のためには，融雪期を考慮した通年での河川水質の研究が欠かせないと考えました。こうして，融雪期も含めた採水に本格的に乗り出すことにしました。そして今回の受賞に繋がり，今ではずいぶんやる気が出ています。

私たちは融雪期の採水をはじめて間もなく，まだ２年分のデータの蓄積しかありません。融雪期の栄養塩流出の特徴や濃度形成メカニズムを明らかにするためには，さらなるデータの蓄積が必要と考えています。とはいえ，今回の研究で，週一よりも短い頻度で融雪期の濃度を評価することや融雪期における降雨時の濃度変化を把握することの必要性など多くの課題を指摘することができました。今回の受賞を励みにして，今後も調査を継続していきたいと考えています。

最後に，本研究を進める上でご指導くださった鳥取大学農学部の芳賀弘和先生，鳥取大学教育研究林「蒜山の森」の職員の皆様，調査に協力してくれた緑地防災学研究室の皆様，そしていつも遠くから応援してくれた家族に心より感謝申しあげます。怪我もなく雪山での調査を続けてくることができたのは，皆様の支えがあったからです。ありがとうございました。